

「エール」と古閑裕而さんを後世に

福島商工会議所青年部 副会長

西形 吉和

さんに聞きました！



「エール」誘致活動について教えてください

平成27年1月に誘致活動を始めてから平成31年2月のドラマ決定までの約4年間、署名活動などさまざまな取り組みを行いました。最初から全てが手探り状態で、悩み、考えながらの誘致活動でしたが、青年部のメンバーと励まし合いながら「常に楽しく」活動できたから継続できたのだと思

います。青年部の

活動を起点に、ま  
ちの先輩方が繋い  
でくれた古閑裕而  
さんの功績をたた  
える活動などが広  
がっていきました。  
いろいろな人と  
「エール」の放送決  
定を喜んで、同  
じ楽しみを分かち  
合えたことは財産  
になっています。

「エール」に対する思いは？

「エール」の放送  
をきっかけにまちの皆さんや、  
関係機関の皆さん、いろいろ  
な方との繋がりができ、ま  
ち全体が動き出し、変わって  
いくのを日々目の当たりにし  
ています。まさにレガシーとい  
うか、素晴らしい財産を「エ  
ール」はもたらしてくれました。

今後の展望は？

「エール」は実在の人物をモデルにしている分、観光効果は長く続くと思われま

送終了後も福島を訪れた方に「エール」を思い出していただき、音楽の魅力や福島の良さを体感していただきたいです。春の観光シーズンから果物の時期まで、古閑裕而記念館を含むまちなかを観光客の方に楽しんでいただけるようなコンテンツを提供できればと思っています。

皆さんへメッセージを

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、「エール」という言葉が思わぬ形で時勢にマッチし、福島から日本全国、世界へと広がっていきました。この「エール」の広がり  
は、まさに古閑裕而さんの音楽が世界に広がっていくよう  
です。古閑裕而さんは激動の時代の中、苦難を乗り越え、  
明るい曲を多数作曲され多く  
の方に親しまれています。  
「エール」はとても楽しく、  
明るい作りをしていただいで  
いますので、皆さんも最後まで  
楽しんでいただきたいです。  
私たちはこれからも、「エール」  
と古閑裕而さん関連のみならず、  
これからのまちづくりに  
関わる活動を展開していきたい  
と思っています！



## We Love ♥ ふくしま！ 第32回『土偶に思いをさせて』

「しゃがむ土偶」をご存じですか？

本市東湯野の上岡遺跡から出土した、縄文後期、約3500年前の土偶です。しゃがんで腕を組むユニークな姿勢に、乳房と膨らんだお腹。座産または祈りを捧げているのだとか。非常に貴重な国重要文化財の指定です。

いま、縄文土器や土偶がブーム。「縄文女子」「土偶女子」なる女子も増えているそうです。

市では、4月から「ドッキ土器ふくしまプロジェクト」を展開中。「ドキドキじょうもん商店街」では、12のお店で本物の土器や土偶レプリカに出会うことができ、普段はなじみのないお店に入れます。

じょーもぴあ宮畑では、「集結！国宝土偶レプリカ5体と福島の土偶展」を開催しています。縄文のビーナス、縄文の

女神、カックウ、仮面の女神、合掌土偶、レプリカとはいえ、国宝5体は実に魅力的で、各々の時代の特徴を端的に表しています。これらが並ぶ姿はめったに観られませんので、ぜひご覧ください。

そして誇らしいのは、「しゃがむ土偶」は国宝土偶に勝るとも劣らず魅力的であるということ。外形や表面文様、写実的な精巧さは随一で、赤漆が塗られていたそうです。この土偶が縄文人の中でどんなシーンを演出していたのか？色彩も含めて想像が膨らみます。精緻な作業を行う技術者集団の存在など、古代ふくしま社会が進歩的だったのでしょう。

腕を組んだ姿から「ストレッチ土偶」との異名もあります。しかも、細身で足が長い。土偶として異例のスタイルなのです。立ち上がって、ストレッチをしだしたら面白いだろうなあ、とCG動画を作ってしまいたくなります。

この土偶への想像は尽きません。縄文時代からの贈り物の価値を再認識し、福島が生んだスターとして活用していきたいものです。

福島市長 木幡 浩